

被災地派遣レポート〈第109回〉

建設局南多摩西部建設事務所 野元 秀美さん

私は、平成24年4月から6月末まで、福島県いわき市にあるいわき建設事務所に派遣されました。派遣期間中の様子について報告します。

1 いわき建設事務所の概要

私が派遣されたいわき建設事務所は、福島県南部太平洋岸の茨城県との境に位置するいわき市全域（面積1231平方キロメートル：東京都区部の2倍）の道路（44路線：延長561km）・河川（11水系：64河川3ダム）・海岸・公園を管理している事務所です。

この地域の被災は平成23年3月11日の地震では揺れでの被害は少なく、海岸やその周辺での津波による被害が甚大でした。その後平成23年4月11、12日に起きた余震により、道路・河川が破壊され、土砂崩壊も各所で発生し、市内全域が機能しなくなりました。現在、災害査定を受けた案件はこの余震によるものがほとんどで、257箇所395億円の復興・復旧を行っており、9都県から22人の派遣職員が用地課、建築住宅課、復旧復興課に配属され、福島県庁職員とともに日々復興活動をしています。



津波に襲われた海岸地域

2 私に課せられた業務

私が配属された復旧復興課は道路橋梁担当、復興まちづくり担当、河川海岸担当に分かれ、福島県職員15人、派遣職員13人、事務補助員2名で復興箇所の設計・現場監督を各々担当し、事業を推進しました。

私はそのうち、河川3件の災害箇所の設計を行い、4月中に発注することと、昨年度から続いている河川工事の現場監督を1件担当することが課せられました。

被災した現場を見ると、堤防に亀裂が入り、護岸ブロックが崩れ落ちています。河口近

くでは、地盤が沖合に引っ張られ80cm沈下している場所もあります。このまま再度、大きな地震や台風などの大雨で増水した場合、甚大な2次災害が起こる場所ばかりです。4月中に課せられた案件だけでなく、一つでも多く起工して、早く復旧工事に着手し、県民に「安全・安心」を届けることが、私に課せられた業務と実感しました。私ばかりでなく、他県から応援に来ている職員全員が同じ気持ちで仕事をしていたため、とても職場環境は良好で、派遣者全員で得手不得手な部分を補いながら事業を進めることができました。



河川の被害現場

(ブロックが崩れ落ち、堤防に亀裂が発生しています。)

3 生活状況

いわき市は福島県内でも最も栄えているような市街地で、全国展開している有名スーパーも22時まで開店しており、生活面には一切、不自由がありませんでした。居住地も職場から自転車で10分ぐらいの場所に、家電付アパートを福島県に用意していただき、快適な生活でした。

週に1～2回は派遣職員が集まり、夕食会を開くなどして、互いの交流を深めました。



復旧復興課の派遣職員

(4月から一緒に配属された仲間です。)

4 派遣生活を終えて

自分に課せられた業務のうち、河川工事現場は6月30日に無事、無事故でしゅん功し、地域住民に対し、安心な環境を戻すことが出来ました。3件の箇所の設計は2本にまとめて発注しました。しかし、地元建設会社は瓦礫撤去や除染作業などの仕事がたくさんあるので、この2本の工事を受注してくれる会社がありませんでした。そのため、自分の仕事の成果を挙げる事が出来なかったのは残念ですが、日本全国から復興のために集まった派遣職員や福島県の職員、事務補助員の30名で目的をひとつに、苦楽を共にした貴重な体験は今後の自分の糧となり、防災意識がより高いものになりました。



自分が担当した河川復旧現場
(写真は現在の様子です。)

10月下旬に4ヶ月ぶりにいわき市に行きましたが、私が帰任する時とほとんど変わらない状態でした。まだ派遣されている栃木県の職員の方に伺いましたが、やはり他の仕事量が膨大で河川工事を発注しても、受注できる会社が無いそうです。

いつ、また同じような災害が起きるかわからず、不安な生活を送っている住民に、一日でも早く安心な生活が戻るように祈る気持ちで帰ってきました。

これから、復興事業や防災事業が進み、いわき市に早く元気が取り戻り、震災前以上のすばらしい街が出来るよう楽しみにしています。

以上